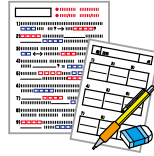




けやき



令和5年度 学校だより
甲府市立 南中学校
全国学力・学習状況調査特別号

全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日(火)に小学校6年生と中学校3年生を対象に全国の小中学校で実施されました。「国語」「数学」に今年度は「英語」の検査が加わるとともに、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査もありました。調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導等に役立てることです。本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者・地域の皆様にもお知らせするとともに、本校ホームページにも掲載していきたいと思っております。

1. 本校の状況

本校の平均正答率は、国語・数学・英語の教科において、国語は全国(公立)、山梨県(公立)と同等である。数学と英語については、全国と山梨県をやや下回っている。各教科の結果については、「2. 各教科の結果から」のとおりである。

	国語	数学	英語
山梨県(公立)平均正答率	70	50	43
全国(公立)平均正答率	69.8	51.0	45.6



2. 各教科の結果から

中学校学習指導要領では、それぞれ教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて整理されており、これら3つの柱は相互に関連づけながら育成されるものという考えに立っている。このうち、国語・数学・英語のそれぞれの教科について「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の2つの評価の観点に基づき出題されている。



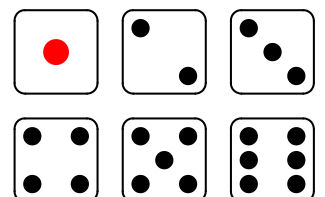
(1) 国語

国語科において、全体の平均正答率は、山梨県や全国と比べてほぼ同等という結果となった。県・全国より上回った項目は、「知識及び技能」の情報の扱い方に関する事項であった。このことからインターネットの記事を読んで気付いた点をまとめる力や標準的な語彙力は身に付いているといえる。

それに対し、下回った項目は、「知識及び技能」の中の我が国の言語文化に関する事項で、古典の原文と現代語の文章の内容をとらえていく力が不足していることから、古典嫌いな結果を読み取ることができた。また、「思考力・判断力・表現力」の書くこと、読むことに課題があることがわかった。主に書くことでは、読み手の立場に立って文章を整える推敲力が、読むことでは、2つ以上の文章を比較する力が低いことがわかった。

(2) 数学

全体の平均正答率は、山梨県・全国をやや下回る結果となった。「数と式」領域における式の変形、意味の読み取り、事柄が成り立つ理由を説明する問題における正答率は、県・全国を上回った。しかし、領域でいう「図形」「関数」の問題は、下回る問題が多く、四分位範囲を求める問題の正答率が低かった。一方で、「関数」「データ活用」や事象を数学的に解釈し、数学的に説明する問題や、データを読み取り、判断した理由を数学的な表現を用いて説明する問題における無回答率が県・全国よりも低く、難しい問題も投げ出さずに取り組んだ様子が見られた。



(3) 英語

全体の平均正答率は、山梨県や全国と比べて全体的に下回る結果となった。一方で、情報を正確に読み取る問題をはじめとする「知識・技能」の「読むこと」については、平均的な結果であった。「書くこと」に全般的に課題がある。中でも「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が低いことがわかった。特に、社会的な話題について自分の考えやその理由を述べる問題の正答率が低く、無回答率も高かった。



3. 教科における主な改善点

(1) 国語

- ・ 古典に対しての苦手意識を払拭するために、古典は暗記科目ではなく、日本の伝統文化に触れる科目であることを授業の中で生徒に伝えていく。現代社会にも通じる言葉の成り立ちや、日本が古くから風習にしていることを知ることで、現代の日本をさらに深く理解できる。最近では、「源氏物語」や「竹取物語」など有名作品が漫画でリメイクされている。古典は難しいという壁を無くすために、漫画などの教材を取り入れていく。
- ・ 「書くこと」の事項では、推敲力を向上させるために、ただ感想や文章を書かせるのではなく、書かせた後に生徒同士で読み合い、改善点を出し合い、より相手に伝わる文章に直す取り組みを行っていく。
- ・ 読むことの事項では、2つ以上の文章を比較して読む力を向上させるために、批判的に読むことに取り組んでいく。

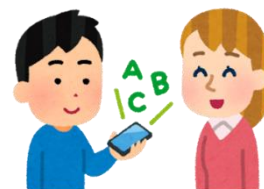
(2) 数学

- ・ 「数学的な表現を使って、自分の考えを表現すること」に対する、苦手意識を減らしていくことが必要である。そのために、授業の中で、より一層「自分で考え、自分の考えを表現する」学習活動を仕組んでいく。
- ・ 四分位範囲をはじめとする基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るため、意味をしっかりと理解した上での繰り返しの練習と確認を継続的に行う。
- ・ 関数・図形領域において、ICTを活用していくなかで、解決に向けての筋道を、根拠を明らかにしながら考え、それを記述したり自分の言葉で表現したりする場面を仕組んでいく。



(3) 英語

- ・ 社会的、または日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある文章を書く力を伸ばしていくことが必要である。そのために、文章構成の特徴を知り、与えられたテーマに対して使える表現を自分で見つけ出すことができるように、授業の中で行う言語活動の充実をより一層はかかっていく。



4. 質問紙の結果から

- ・ 「自分には良いところがあるか」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うか」などに対して、「当てはまる」と回答した生徒の割合が、県・全国よりも10ポイント以上高かった。様々な活動の中で生徒の自己肯定感がはぐくまれ、教師との信頼関係も構築されている。
- ・ 「家庭学習時間」、「読書が好きか」については、県・全国よりも低く、課題である。
- ・ 「1,2年生で受けた授業に関する質問」や「総合的な学習の授業の取り組み」、「学級活動に関する質問」、「自分の学級に関する質問」においては、県・全国と比べて極めて高い。みんなみ祭などの行事を通して、学級や学年の活動を大切にしてきた伝統がこれらの結果に結びついていることがうかがえる。

5. 質問紙調査からの改善点

- ・ 家庭学習習慣の定着。自分で計画をたて、目標に向かって地道に努力する習慣をつけていきたい。自主学習ノート、整理と対策、e-ライブラリを活用し、学年生徒会の活動とリンクさせながら、自主的に取り組む環境・雰囲気づくりを進める。
- ・ 自ら考え、取り組む、仲間と共に切磋琢磨しながら活動する、そんな環境を仕組んでいく。
- ・ 朝読の時間をしっかりと確保していくと共に、図書委員の活動を推進していく。